

広がる薬剤師の役割 その未来を担う薬学教育を

地域医療から災害現場まで。 広がる薬剤師のフィールド

超高齢社会の進展や医療DXの推進など、日本の医療環境が激変する中、薬剤師が果たすべき役割は多様化しています。次世代を担う薬剤師のあるべき姿や薬学教育について、日本薬剤師会常務理事の山田武志さんに伺いました。

薬剤師の魅力は、その専門性によって人々の健康に直接的に貢献できる点です。「薬を正しく、素早く提供する」だけでなく、医療DXによってもたらされる情報をより安全かつ的確な服薬につなげることや、患者や医師とのコミュニケーション、健康相談などの「未病」段階からのサポートまで、薬剤師の職能の幅は着実に広がっています。その活躍の場は薬局や医療機関に加え、「学校薬剤師」やアスリートの薬剤服用に助言する「スポーツファーマシスト」、また近年その重要性が高まっている被災地の医薬品供給や衛生管理を担う「災害薬事コーディネー

ター」など、公的な領域も含めて拡大しています。

薬剤師養成のための薬学教育は6年制になり、より実践力を備えた薬剤師の育成が進んでいます。今後は実習のさらなる充実が議論され、学生が多様な分野からキャリアを選択できる環境も整えられていくでしょう。しかし、薬剤師になることはスタートに過ぎません。医薬品の進歩や社会の変化に対応するには、「生涯研鑽^{けんさん}」が不可欠だからです。常に患者に寄り添い、学び続け、その成果を人々の健康に役立てたい。そんな志を持つ方に、薬学の未来を担っていただきたいと願っています。



公益社団法人
日本薬剤師会常務理事

山田 武志さん

●1997年日本大学薬学部卒業。同年日本ベーリンガーインゲルハイム(株)入社。2003年(株)Y&A設立、同年厚生堂薬局開局。24年日本薬剤師会常務理事(薬学教育委員会担当理事、生涯学習委員会担当理事)に就任。24年一般社団法人日本認知症予防学会理事、26年一般社団法人日本薬学教育学会理事就任。